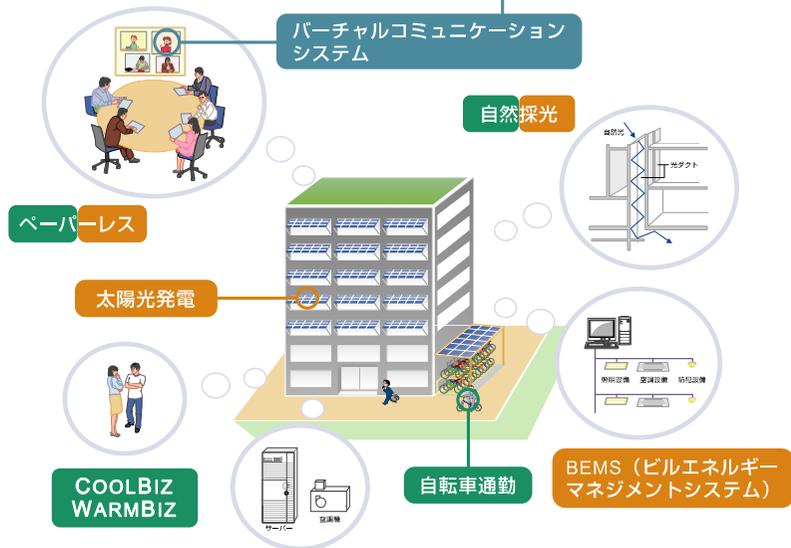
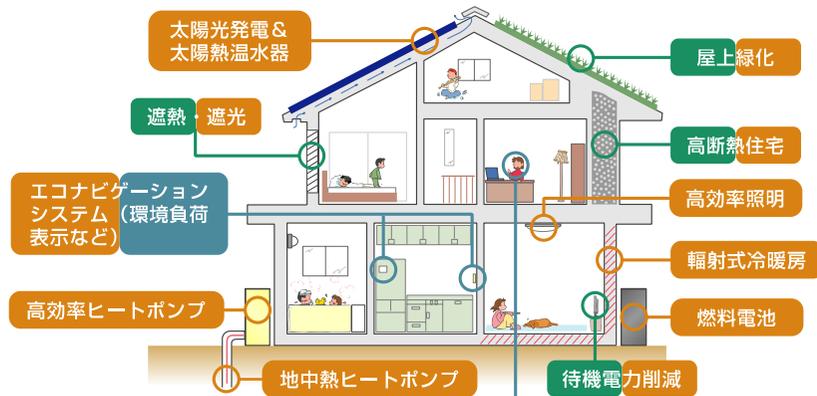


2. 低炭素社会の具体的イメージ（2）

－ 居住空間・就業空間（住宅・建築物） －

低炭素社会における 「居住空間」のイメージ図



低炭素社会における 「就業空間」のイメージ図

注) エアコン、断熱、ヒートポンプはノンフロン化

行動 Behavior

- ・家でも職場でも、無駄にエネルギーを使わないようにする、自然のエネルギーは有効に利用するという心構えが当たり前になっている。
- ・「見える化」技術によって提供される正確な情報に基づき、省エネ行動を実践している。
- ・無駄なエネルギーを使わないようにするということについて、家庭、マンション住民、社員といったそれぞれの構成員が、常に高い環境意識の下に協働して省エネを実現している。
- ・洗練されたICT (Information & Communication Technology)によって、自宅の立地に関わらず、自宅や自宅近辺の施設において会社と同様の作業環境を構築することができ、働き方の自由度が大幅に増している。企業にとっても、立地の自由度が高まり、大都市に立地せずとも世界市場での仕事ができるようになる。

技術 Technology

- ・我が国の「ものづくり」力を集結したエネルギー効率の高い機器や自然エネルギー利用機器が開発され、広く普及している。
- ・ICT を利用した制御技術も広く普及し、照明や空調は生活者の動きに合わせて運転されている。
- ・地域それぞれの気候条件に適した住宅を生み出すデザイナーと匠が育成され、自然を建物内に上手に取り入れ、また、冬季は暖房を使わなくとも十分に暖かい、快適な空間を提供する建物が普及している。
- ・住宅・建築物の寿命を延ばす工法・デザイン（200年住宅）やエコ改修が普及。住宅中古市場が活性している。
- ・木造住宅・建築物の普及が拡大。中層階の建築物にも木造が採用されている。

活動の場 Field of activities

- ・各自が使用している機器のCO2排出量を、いつでもどこでも把握できる「見える化」（環境負荷の表示、環境配慮行動に関するアドバイスなど）インフラが整備されている。

2. 低炭素社会の具体的イメージ（3）

— 消費者選択 —

低炭素社会における「見える化」と消費者選択のイメージ図

「食」



値段表示パネル、商品バーコードに環境情報。消費者は旬や地産の食材を嗜好する

「住」



各住宅の建設時・使用時の温室効果ガスの排出量が不動産屋などに表示されており、その値が住宅選択基準として大きなウエイトを占める。ライフステージに合わせて必要なサイズの住宅に移り住む。

「家電」

| メーカーまたはブランド | 製品名称 | 省エネルギー性能指標※1 | | | |
|-------------|--------------|--------------|-------------|-----------|-----|
| | | 省エネマーク | 省エネ基準達成率(%) | 省エネ率(COP) | APE |
| 1 三菱電機 | 霧ヶ峰 ムーブアイ | ● | 106 | 5.60 | 6.2 |
| 2 富士通ゼネラル | | ● | 101 | 5.81 | 5.9 |
| 3 シャープ | 「除菌イオン」搭載E73 | ● | 100 | 5.15 | 5.8 |
| 富士通ゼネラル | | ● | 100 | 5.41 | 5.8 |
| 5 シャープ | 「除菌イオン」搭載E73 | ● | 96 | 5.15 | 5.6 |
| 6 三菱電機 | | ● | 93 | 4.90 | 5.4 |

各製品のライフサイクルの温室効果ガスの排出量が定量化および指標化されており、その値が商品選択基準として大きなウエイトを占める。

「娯楽」



GHG排出量の大きな娯楽（海外旅行など）を選択する場合には、カーボンオフセット商品に相応の料金を支払う。

行動 Behavior

- 人々は様々な商品を購入する際には、以下のことが当たり前になっている。
 - 必要のない付属物や包装品は受けとらない
 - 再用品（リユース）の購入や、モノを購入せずにサービスの購入（レンタル）を嗜好する
 - ライフサイクル的に見て環境負荷の小さいものを選択
 - 居住する地域に誇りを持ち、その地域で生産されたものを積極的に購入
 - 社会貢献意識が低い企業の商品は購入しない
 - 有限な地球環境を利用（温室効果ガスの排出）するためには費用を払う

技術 活動の場

- 消費者が商品やサービスを選択する際には、その商品やサービスがライフサイクルで排出するCO2の量を、いつでもどこでも把握することができる「見える化」インフラおよびルールが整備されている。
- 環境により行動や製品・サービスの購入に対してポイントが貯まるエコポイントの仕組みが普及している。

「車」



必要な時だけ必要なサイズの自動車をレンタルする。

「運転」

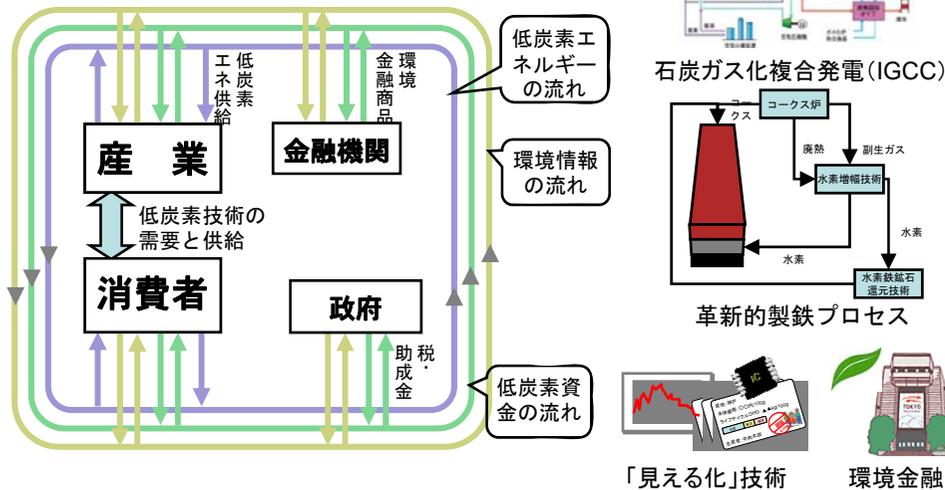


運転中の燃費、エコドライブ方法のアドバイスを表示、音声出力。その情報に従い、エコドライブを実施。

2. 低炭素社会の具体的イメージ（4）

— 産業 —

低炭素「ものづくり」をささえる 資金・技術・情報の流れ



行動 Behavior

- 地球温暖化問題をビジネスチャンスととらえ、その対策に積極的に取り組み、技術開発、生産プロセスの効率化、LCAを考慮した循環資源の利用推進、社員教育、途上国への技術移転などを通じて低炭素社会の形成に大きく貢献している。
- 企業活動に伴う環境負荷や環境問題に対する取り組みについて、詳細な情報を国民に開示している。
- 低炭素社会においても企業活動が損なわれることがないようにビジネスモデルを常に変革している。
- 労働時間、勤務場所、副業など社員の働き方に柔軟性を持たせており、社員は地域社会のための時間を十分に確保できる。
- サプライチェーン全体での低炭素化が図られている。

技術 Technology

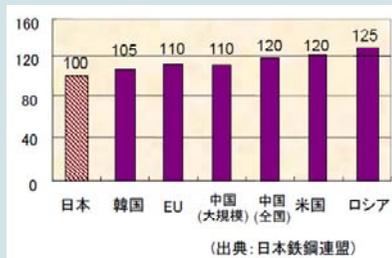
- 我が国の「ものづくり」力を結集したエネルギー効率の高いエンドユース技術や自然エネルギー利用技術が開発され、また、環境に配慮した設計(DfE)が徹底され、消費部門での普及が進んでいる。
- 製造工程において、石炭の代わりに水素を還元剤として用いた製鉄技術等の革新的製造技術が開発・導入され、産業部門でのCO₂排出量の削減に大きく寄与している。
- 電力供給については、高効率・ゼロエミッション火力発電、先進的原子力発電、バイオマスエネルギー等再生可能エネルギー、高効率送電などの開発・普及により低炭素型電力インフラを実現している。

活動の場 Field of activities

- 優れた環境技術を有する企業、革新的な環境技術の研究開発などに多くの資金が集まるような構造が定着している。多様な環境金融商品が流通している。
- 温室効果の削減に貢献できる技術の世界規模で普及させるための支援体制が確立している。

日本の誇り

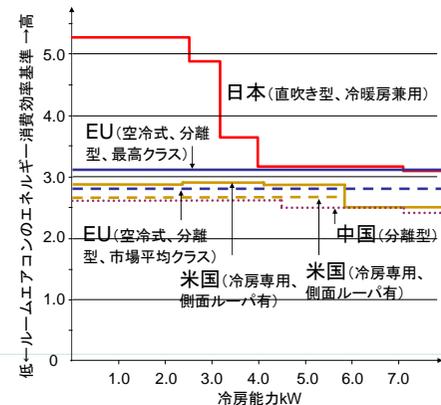
「現在の世界最高効率の技術を多数保有する。」



鉄1トンを作るのに必要なエネルギー指数の国際比較



ハイブリッド自動車



ルームエアコンのエネルギー消費効率
省エネルギーセンター「海外と日本における機器のエネルギー消費効率分布及び実測による効率比較に関する調査」(2006)より作成